

# フリガナヲトンボノゴトク書キニケリ

藤田湘子

楽しい句。カタカナが嫌いだった湘子が、カタカナばかりの句を残していることにまず気を引かれる。しかも「書く」という字だけは漢字で書かれているところも、湘子のこだわりを感じておもしろい。

『一個』所収。昭和五十八年五月十八日作。「一日十句」を始めて三ヶ月余り、一番苦吟していた頃である。

このフリガナはどんな漢字に付けられたのだろう。蜻蛉に「トンボ」というのは、余りにも付きすぎというものだが、「トンボ」というカタカナは、見るほどに蜻蛉に見えてくるではないか。何か手がかりはないかと、往時の「鷹」誌を調べてみたが、この日は十句の内この一句のみ句集に残されていた。

1983年 (558.05.18作) 第六句集『一個』 鑑賞・野本京